



# オペラガラ実習コンサート

2021年12月14日(火)

開演18時(開場17時30分)

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

# Program

モーツァルト作曲「フィガロの結婚」より  
W.A. Mozart(1756-91) //Le nozze di Figaro

(1) 第5番 “Via resti servita, Madama brillante”

「お先にどうぞ、素敵なお嬢様」

スザンナ Susanna 立田 紗音理  
マルチェリーナ Marcellina 岡村 彬子(♪)

(2) 第14番 “Che novità!” 「どうしたのだ！」

伯爵 Conte 宮城島 康(♪)  
伯爵夫人 Contessa 菅原 実華子  
スザンナ Susanna 石塚 紫音莉

(3) 第16番

“Signori di fuori son già i suonatori”

「皆様、外にはもう楽士たちが」

スザンナ Susanna 井上 ころろ  
伯爵夫人 La Contessa 行場 結佳  
フィガロ Figaro 水見 健一郎(♪)  
伯爵 Il Conte 宮城島 康(♪)  
アントニオ Antonio 堺 信博(教員)

(4) 第17番 “Crudel! perché finora”

「憎いぞ！なぜこれまで」

スザンナ Susanna 岸 佳那子  
伯爵 Il Conte 宮城島 康(♪)

モーツァルト作曲「魔笛」より  
W.A. Mozart(1756-91) //Die Zauberflöte

(5) 第1番 “Zu Hilfe! Zu Hilfe!” 「助けてくれ！」

タミーノ 佐久間 涼平  
侍女1 Dame 1 河村 未奈  
侍女2 Dame 2 荒 理緒奈  
侍女3 Dame 3 岡村 彬子(♪)

モーツァルト作曲「魔笛」より  
W.A. Mozart(1756-91) //Die Zauberflöte

(6) 第5番 “Hm! hm! hm!”

「フム！フム！フム！」

タミーノ Tamino 佐久間 涼平  
パパゲーノ Papageno 宮城島 康(♪)  
侍女1 Dame 1 河村 未奈  
侍女2 Dame 2 奥山 雅子  
侍女3 Dame 3 岡村 彬子(♪)

(7) 第7番 “Bei Männern, welche Liebe fühlen”

「愛を感じる男の人達には」

パミーナ Pamina 福田 真桜  
パパゲーノ Papageno 宮城島 康(♪)

(8) 第21番

“Bald prangt, den Morgen zu verkünden,”

「やがて朝を告げるために輝くのは」

パミーナ Pamina 菅原 智里  
童子1 Knabe 1 石井 杏実  
童子2 Knabe 2 佐々木 遥  
童子3 Knabe 3 岡村 彬子(♪)

(9) Finale “PaPaPa” 「パ パ パ」

パパゲーナ Papagena 上本 杏子  
石塚 紫音莉  
パパゲーノ Papageno 宮城島 康(♪)

(♪) 演奏補助

# Program

モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」より  
W.A. Mozart (1756-91) // Così fan tutte

(10) 第29番 “fra gli amplessi”

「もうすぐあの腕に抱かれ」

フェランド Ferrando 井出 司(♪)  
フィオルディリージ Fiordiligi 西 美穂

ロッシーニ作曲「結婚手形」より

G.A. Rossini (1792-1846) //

La cambiale di matrimonio

(11) 第1幕 “Darei per si bel fondo”

「こんな素敵な債券のためなら」

ファンニ Fanny 澤田 真里愛  
ズルック Slook 宮城島 康(♪)

ロッシーニ作曲「セヴィリアの理髪師」より

G.A. Rossini(1792-1868)//Il barbiere di Siviglia

(12) 第1幕

“Ma, bravi! Ma benone! ~Dunque io son”

「立派だよご両人、大したもんだ！」

ロジーナ Rosina 前川 乃慧  
フィガロ Figaro 奥 大樹

ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」より

G Donizetti (1797-1848)//L'elisir damore

(13) 第1幕 “Una palora,o Adina”

「一言だけ、アディーナ」

アディーナ Adina 畠井 美緒  
ネモリーノ Nemorino 井出 司(♪)

(14) 第2幕 “Come sen va contento”

「あの人、あんなに嬉しそうに」

アディーナ Adina 国武 睦子  
ドゥルカマーラ Dulcamara 氷見 健一郎(♪)

ヴェルディ作曲「椿姫」より

G Verdi(1813-1901)//La Traviata

(15) 第1幕 “Oh qual pallor~Un di,felice, eterea”

「なんて顔色が悪いの~幸せなあの日」

ヴィオレッタ Violetta 松本 明音  
アルフレード Alfredo 井出 司(♪)

(16) 第2幕 “Madamigella Valery?”

「ヴァレリーさんですか？」

ヴィオレッタ Violetta 二瓶 みづき  
ジェルモン Germont 宮城島 康(♪)

ニコライ作曲「ウィンザーの陽気な女房たち」より

C Nicolai(1810-49)//

Die lustigen Weiber von Windsor

(17) 第1幕 “Nein Das ist wirklich doch zu keck”

「信じられません、なんて図々しい！」

フルート夫人 Frau Fluth 稲葉 みのり  
ライヒ夫人 Frau Reich 上原 愛美

メノッティ作曲「電話」より

G C Menotti(1911-2007) // The Telephone

(18) “Hello,this is Lucy”

「もしもし、ルーシーよ」

ベン Ben 宮城島 康(♪)  
ルーシー Lucy 松添 あおい

(♪) 演奏補助



## Program Note

モーツァルト作曲「フィガロの結婚」より

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) //Le nozze di Figaro

### (1) 5番 “Via resti servita, Madama brillante” 「お先にどうぞ、素敵なお嬢様」

様々な思惑が飛び交う結婚式当日、ここにもまたフィガロ達の結婚を邪魔しようと、女中頭のマルチェリーナが、かつてフィガロにお金を貸した時に書かせた「借金を返せなければ結婚する」という証文を利用して、結婚を企み部屋で待っている。そこへスザンナが現れて、2人は口論になる。スザンナを言い負かそうと、始めは強気なマルチェリーナだったが、スザンナの「Le tà(おばさん)」という言葉で大ダメージを受け形勢は逆転する。負けじと応戦するマルチェリーナだったが最後はスザンナに言い負かされ、怒り狂って部屋を後にする。

### (2) 第14番 “Che novita!” 「どうしたのだ！」

伯爵が夫人の不貞を疑い詰め寄り、夫人はそれを誤魔化そうとしている場面である。何とか伯爵の疑いから逃れようとするものの、化粧室で物音がしたのを聞かれ何者かがいることがばれてしまう。夫人は化粧室にいるのはスザンナだと言ってしまうが、実際にそこにいるのはケルビーノであった。夫人に頼まれたリボンを持って部屋に戻ってきたスザンナは部屋に伯爵がいることに気づき、アルコールに隠れながら様子を窺っている。そこから始まるスザンナを挟んでの駆け引きは、緊張感のある掛け合いによって表現されている。

### (3) 第16番 “Signori di fuori son già i suonatori” 「皆様、外にはもう楽士たちが」

衣裳部屋に隠れていたのはケルビーノではなくスザンナ。スザンナと夫人は、手紙はフィガロが書いたもので伯爵を試すためだったと暴露し、伯爵夫妻は仲直りする。しかし、事情を知らずにやってきたフィガロに、伯爵は手紙について問い詰める。上手くごまかし結婚式を進めようとするが、庭師アントニオが大騒ぎでやってきて、「バルコニーから男が降ってきた」と訴える。フィガロが機転を利かせて「それは自分だ」と言い張るが、アントニオが落ちていたケルビーノの辞令を伯爵に渡す。飛び降りたのはケルビーノだと確信した伯爵は、フィガロを問い詰める。フィガロは「辞令には押印がされていなかったの、自分が預かった」と主張し、その場を乗り切る。

### (4) 第17番 “Crudel! perché finora” 「憎いぞ！なぜこれまで」

伯爵夫人のために、スザンナが伯爵を騙そうとしているシーン。スザンナは、伯爵夫人のための薬を受け取ることを口実に伯爵に近づき、会話の中で彼の誘いに応じるような素振りを見せる。始めは不機嫌だった伯爵も、スザンナの演技にすっかり騙されてしまい大喜び。一方スザンナは、伯爵のあまりの喜びように後ろめたさを感じつつ、伯爵夫人のために一生懸命演技をし続





ける。言葉巧みに伯爵を騙そうとするスザンナと、まんまとその言葉に乗せられてしまう伯爵、その二人の駆け引きが見所の場面である。

## モーツァルト作曲「魔笛」より

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Die Zauberflöte

### (5) 1番 “Zu Hilfe! Zu Hilfe!” 「助けてくれ！」

岩山にて大蛇に追われながら王子タミーノが登場する場面から始まるこの曲。弓は持っているが屋がないことに絶望し恐怖のあまり神に助けを求め気絶してしまう。そこへ現れた夜の女王に使える三人の侍女たちにより大蛇が退治される。倒れているタミーノを見つけ三人とも見惚れてしまう。素敵な王子が倒れていたことを女王様に伝えれば前の優しい女王様に戻るかもしれないと期待し、誰が女王様に伝えに行くかを言い争う三人。別れが惜しいものの三人で女王様に伝えるに行くことを決心した三人はタミーノに別れを告げ、その場に彼を置いて女王様のもとへと帰る様子がえがかれている曲である。

### (6) 第5番 “Hm!hm!hm!” 「フム!フム!フム！」

三人の侍女が去った後、倒れているタミーノのもとへ鳥を捕り女王へ献上することで暮らしているパパゲーノが現れる。目を覚ましたタミーノに自分が大蛇を倒したと嘘をつくパパゲーノ。その嘘が侍女たちにバレ、罰として口に錠前をはめられてしまっている。喋れないことをタミーノに訴える場面から始まるこの曲。三人の侍女たちが現れ、侍女たちに貰った夜の女王の娘パミーナの絵姿に一目惚れをしているタミーノには魔法の笛を、女王から許しを貰い錠前が外れたパパゲーノには魔法の鈴を与えた。彼女たちは彼らにそれらの道具をもって三人の童子をお供に、悪魔ザラストロにさらわれてしまっているパミーナをザラストロ城へと助けに行くことを命じる場面である。

### (7) 第7番 “Bei Männern, welche Liebe fühlen” 「愛を感じる男の人達には」

夜の女王の娘パミーナはザラストロに攫われ、捕えられてしまう。鳥刺しのパパゲーノが捕われていたパミーナを見つけ、王子タミーノがパミーナを愛していること、夜の女王の命令で助けに来たことを伝える。初めは突然現れたパパゲーノの存在を怪しんでいたが、母親のことを知っていて、自分の絵が描かれた鏡も持っていたパパゲーノの話に少しずつ興味を持っていく。愛という言葉が大好きなパミーナは喜び、「愛は素敵なものだ。」「男はこんな生き物だ。」と歌い出す。

「男と女」、「愛」について歌われている。

### (8) 第21番 “Bald prangt, den Morgen zu verkünde” 「やがて朝を告げるために輝くのは」

ザラストロに返してもらった笛をタミーノが吹くとパミーナが現れる。しかし、沈黙の試練を受けているタミーノは話すことができない。一切口をきいてくれないタミーノに対して、事情を知らないパミーナは「捨てられた」と思い、母がくれた短剣で自ら命を絶とうとしている。三人の童子が止めに入るが、パミーナは聞く耳を持たない。しかし、童子から「タミーノはあなたの





ことをだけを愛している」と聞き驚いたパミーナは、タミーノからの愛を再確認し、童子と共にタミーノに会いに向かう。

### (9) Finale “PaPaPa” 「パパパ」

タミーノに置いて行かれたパパゲーノ。パパゲーノは愛する人を探しているが、一向に現れない。そんなパパゲーノの前に1人の老婆が現れる。老婆は「一緒に暮らすと誓わないと、元の世界には永遠に戻れずに地獄へ落ちるよ」とパパゲーノを脅す...が、その脅しは愛に満ちているものであることをパパゲーノはまだ知らない。脅されたパパゲーノがその誓いを渋々約束すると老婆はたちまち若い女パパゲーナへと姿を変える。二人はめでたく結ばれて、子供を沢山作ってたくさん愛情をあげようと大喜びする。

### モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」より

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // *Così fan tutte*

### (10) 第29番 “fra gli amplessi” 「もうすぐあの腕に抱かれ」

フェランドとグリエルモは恋人が浮気なんてしないと言い、2人の友人のアルフォンソはそれを否定する。そして3人は女の貞節を試す賭けをする。フェランドとグリエルモは変装し、お互いの恋人を口説く。しかし、フィオルデリージとドラベツラは恋人に貞節を誓い、誘惑になかなかなびかない。フェランドとグリエルモは恋人が浮気しなかったことに喜ぶが、一度失敗した2人は再び口説きにかかる。だんだんとフェランドのことが気になりだすフィオルデリージ。そこにフェランドが現れ、情熱的に口説き、そして遂にフィオルデリージはフェランドに心を許してしまう。

### ロッシーニ作曲「結婚手形」より

Gioachino Antonio Rossini (1792-1846) // *La cambiale di matrimonio*

### (11) 第1幕 “Darei per sì bel fondo” 「こんな素敵な債券のためなら」

商人トビーアミルは、カナダの取引先ズルックに借金があった。そんなミルは自分の娘であるファンニを彼に娶らせることで、借金を帳消しにしてもらおうと考える、約束の手紙を書き記し送り届けさせる。だがその時ファンニは父には内緒で、エドワルドと恋に落ちていた。二人が愛を囁いているところに、出納係であるノルトンがきて、父の策略を伝え、二人は困惑する。そこに奇妙な格好をしたズルックがきて約束の手紙をファンニの前で読み始める。ファンニに一目惚れしたズルックと頑固に否定するファンニが歌う二重唱。





## ロッシーニ作曲「セヴィリアの理髪師」より

Gioachino Rossini (1792-1868) // Il barbiere di Siviglia

### (12) 第一幕 “Ma, bravi! Ma benone! ~Dunque io son” 「立派だよご兩人、大したもんだ！」

18世紀スペイン セヴィリアのバルトロ邸

ロジーナに一目惚れしたアルマヴィーヴァ伯爵は町の何でも屋であるフィガロの力を借りて、彼女を自分のものにしようとする。身分を隠し、名前もリンドーロと名乗ってロジーナへの愛を歌い、彼女もまたその声に胸をときめかせる。

その裏でロジーナの後見人のバルトロも彼女と結婚しようと音楽教師のバジリオと共に企てている。二人の会話を聞いたフィガロはロジーナにその企てを伝え、リンドーロに手紙を書くように促すが、すでに彼女が用意していることに驚き、その狡猾さに呆れかえる。

## ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」より

Gaetano Donizetti (1797-1848) // L'elisir d'amore

### (13) 第1幕 “Una palora, o Adina” 「一言だけ、アディーナ」

農夫ネモリーノは美しく賢い農場主の娘アディーナに恋をしている。軍曹ベルコーレがアディーナにプロポーズしているのを見て焦ったネモリーノは、「一言だけ聞いてほしい」と、いつものようにアディーナに愛を打ち明け始める。アディーナは「あなたは軍曹とは比較にならないほどいい人よ。しかしあなたは無駄な恋への期待をしている」といい、「気ままなそよ風に尋ねてごらんなさい」とネモリーノへ恋を諦めるように言い聞かせる。アディーナは適当にあしらっているが、本心はまんざらでもなさそうである。

### (14) 第2幕 “Come sen va contento” 「あの人、あんなに嬉しそうに」

ネモリーノの叔父が亡くなり、彼に莫大な遺産が残されたこと村娘たちの間で噂になっている。遺産を手に入れたい娘たちはネモリーノに言い寄り、その光景を見てアディーナは驚く。その時、ネモリーノはアディーナの愛を得るために軍隊に身を売って、手に入れたお金で妙薬を買ったという話を聞いて、アディーナは心を打たれてしまう。ドゥルカマーラはアディーナにも妙薬を渡そうとするが、「妙薬がなくても自分の力でネモリーノを私のものにする」というアディーナにドゥカマーラは翻弄されてしまう。





## ヴェルディ作曲「椿姫」より

Giuseppe Verdi (1813-1901) // La Traviata

### (15) 第1幕 “Oh qual pallor~Un di, felice, eterea” 「なんて顔色が悪いの~幸せなあの日」

舞台はパリ。高級娼婦ヴィオレッタの屋敷では華やかなパーティーが開かれています。ガストン子爵が、友人のアルフレードを紹介し、アルフレードの乾杯で「乾杯の歌」が歌われます。直後、持病の肺結核のせいにより具合が悪くなったヴィオレッタは客人たちにダンスをすすめ、1人休もうと、自室に戻ります。そこにアルフレードが現れ、一年前から愛していたと意思を告げます。最初は彼のことを笑い、あしらうヴィオレッタでしたが、アルフレードの真剣な思いに戸惑いつつも突き動かされ、椿の花と共に再会の約束を告げます。

### (16) 第2幕 “Madamigella Valery?” 「ヴァレリーさんですか？」

一緒に住み始めたアルフレードとヴィオレッタ。

そこへ娘(アルフレードの妹)と良家の子息との縁談が、長男が高級娼婦と同棲しているということによって破綻になるのではないかと恐れたアルフレードの父(ジェルモン)が離縁を迫るために訪れます。

アルフレードは留守中で、ヴィオレッタは一人、如何に自分達が限られた時間を惜しみながら愛し合っているか、そして自分の余命が幾ばくも無いことを説明します。

しかし自分の家と名誉、娘の幸福のみを考えるジェルモンは聞き入れません。

そしてヴィオレッタは別れることを涙ながらに受け入れるのです。

## ニコライ作曲「ウィンザーの陽気な女房たち」より

Carl Otto Ehrenfried Nicolai (1810-49) // Die lustigen Weiber von Windsor

### (17) 第1幕 “Nein Das ist wirklich doch zu keck” 「信じられません、なんて図々しい！」

フルート夫人の元に一通の恋文が届く。差出人はジョン・ファルスタッフという男。

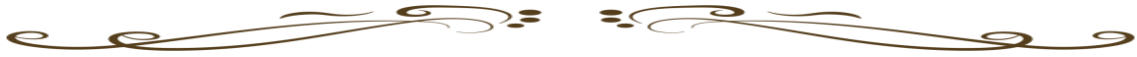
あまりにも失礼な内容の恋文で、フルート夫人は怒ってしまう。そこでフルート夫人は、隣に住むライヒ夫人に相談をしに行こうとするが、様子がおかしいライヒ夫人がやって来る。

ライヒ夫人に話を聞いてみると、彼女の元にもジョン・ファルスタッフからの恋文が届いたという。

二人で届いた恋文を確認していると、内容が全く同じであったことに気づく。

怒りが頂点に達した二人はジョン・ファルスタッフを罾にはめて懲らしめようと作戦を立てるのであった。





## メノッティ作曲「電話」より

Gian Carlo Menotti // The Telephone

### (18) “Hello, this is Lucy” 「もしもし、ルーシーよ」

ルーシーの部屋をボーイフレンドのベンが訪れる。ベンはルーシーにプロポーズをするつもりなのだが、電車の出発時間が近づいているため急いで伝える必要があった。ベンがルーシーに話を切り出そうとしたその時、電話のベルが何度も鳴り、ルーシーは長電話を始めてしまう。ベンは最後の試みとして公衆電話からルーシーに電話をかける。そこでようやく会話の機会を得たベンは、ルーシーにプロポーズをする。ルーシーはそれを受け入れ、最後に2人で離れている間に毎日電話をする約束をし電話番号を確かめる。



## 洗足学園音楽大学声楽コース オペラ実習について

洗足学園音楽大学声楽コースのオペラには、1982年よりご指導いただいた演出家の鈴木敬介先生を始め、秋山和慶先生の指揮、演出助手や舞台監督に、平尾力哉先生、中村敬一先生、小栗哲家先生、舞台衣装の渡辺園子先生といった日本オペラ界の重鎮をおむかえして研鑽して参りました、長い歴史があります。

声楽コースの3本柱【オペラ】【歌曲】【宗教音楽】のうちのオペラ実習の授業では、世界を舞台に活躍する講師陣の下、様々な舞台表現を学んで参りました。

1年間の成果を発表する「オペラ実習ガラコンサート」では、プロジェクターで映し出す背景、字幕の準備、舞台の仕込み・撤収など、歌手として光が当たる部分だけではなく、オペラが生まれる裏側までも、全て学生たちの手で行います。《オペラ研究所》当時から受け継がれてきた舞台衣装に身を包んだ、学生たちの勇姿・優美な姿をどうぞご覧くださいませ。

声楽コース アカデミック・プロデューサー 塩田 美奈子





# MEMBERS

【出演】 洗足学園音楽大学 声楽コース オペラ実習履修生

オペラ実習1 荒理緒奈 石井杏実 石塚紫音莉 井上こころ 上本杏子 奥山雅子  
河村未奈 岸佳那子 行場結佳 佐久間涼平 佐々木遥 菅原智里  
菅原実華子 立田紗音理 福田真桜

オペラ実習2 稲葉みのり 上原愛美 奥大樹 國武睦子 澤田真里愛 西美穂  
二瓶みづき 畠井美緒 松添あおい 松本明音 前川乃慧

演奏補助 岡村彬子 宮城島康 氷見健一郎 井出司 境信博（講師）

【指揮】 松田義生

【舞台演出】 馬場紀碧

【声楽指導】 高田正人 境信博 塩田美奈子 佐藤亜希子 加未徹 武田直之

鳥木弥生 藤井麻美 森谷真理 カリオラ・グイード

水島範子（衣装コーディネーター）

【ピアノ】 伊藤美佐 高田絢子 井向結 大橋響子 高瀬さおり

【照明】 三輪徹郎

【舞台監督】 穂苅竹洋

【舞台】 音楽環境創造コース(制作)学生

